

2016 年 10 月 13 日

プロ・アマチュア問わず世界中のフォトグラファーが参加できる 「OLYMPUS グローバルオープンフォトコンテスト 2016-17」を開催

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、プロやアマチュアを問わず、世界中のフォトグラファーが参加できる「OLYMPUS グローバルオープンフォトコンテスト 2016-17」を 2016 年 10 月 13 日から開催します。

オリンパスは世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を目指して、社会に貢献する製品づくりに取り組んできました。本コンテストでは、4つのテーマ(「溢れる生命力」「心がつながる」「心が惹かれる風景」「新しい視点を感じさせる・・」)で作品を募集し、写真文化の普及・発展をサポートします。プロ・アマチュア、使用している機材を問わず、世界中のフォトグラファーの応募が可能です。応募作品はホームページ上に公開され、地域別に応募作品を閲覧できるなどコンテストのプロセスを楽しむことができます。専用ホームページ(<https://gopc.olympus-global.com/2016/>)をご覧ください。

●「OLYMPUS グローバルオープンフォトコンテスト 2016-17」の概要

- 応募テーマ:
- ①「溢れる生命力」
生き物の瑞々しく、生命力に溢れ、美しく健康的な瞬間を捉えた写真
 - ②「心がつながる」
家族や友人など、大切な人と繋がっていることで感じられる「安心」を表現した写真
 - ③「心が惹かれる風景」
非日常的な風景、絶景、懐かしい風景など、心を動かされる写真
 - ④「新しい視点を感じさせる・・」
今まで見逃していた新しい視点や発見など、心を刺激する創造的な写真
- 応募方法: 専用ホームページより応募
<https://gopc.olympus-global.com/2016/>
- 対応言語: 計 14 ヶ国語 ※1
- 応募期間: 2016 年 10 月 13 日(木)11:00~2017 年 1 月 10 日(火)11:00(日本時間)
- 審査発表: 2017 年 4 月頃、専用ホームページで発表予定
- 賞品:
- ・グランプリ(1 名)
賞金 100 万円+オリンパスフラッグシップカメラ
 - ・テーマ賞(各テーマにつき 1~3 位を選出)
1 位:OLYMPUS OM-D E-M5 Mark II + M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO
2 位:OLYMPUS OM-D E-M10 Mark II + M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ
3 位:OLYMPUS PEN E-PL8 + M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ
 - ・入選(各テーマにつき 10 名)
MOLESKINE カスタムエディション・ハードカバーノートブック

※1 日本語、英語、ドイツ語、フランス語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、タイ語、イタリア語、ロシア語、スペイン語、オランダ語、フィンランド語、ポーランド語に対応



「OLYMPUS グローバルオープンフォトコンテスト 2016-17」
応募サイトイメージ

<本件に関するお問い合わせ先>

- 報道関係の方 : オリンパス株式会社 広報・IR 部 丸山
TEL: 03-3340-2174 FAX: 03-6901-9680
- ホームページ : <http://www.olympus.co.jp>

補足資料

●審査員

・Anne Day(アン・デイ)

報道写真家として長年活躍するほか、ポートレートやウェディング、建築を専門とするカメラマン、記者としても活躍。作品はTIME、Newsweek、The New York Times、The Washington Post、Fortune、Vogueなどあらゆる雑誌に掲載されている。報道写真家としては、これまでハイチ、キューバ、南アフリカ、ナミビアで取材を行い、アメリカ大統領就任式の公式カメラマンを務めた。2016年にはインスティテュート・オブ・クラシカル・アーキテクチャ・アンド・アートより、栄えある「アーサー・ロス賞」を受賞している。



・Kim Lau(キム・ラウ)

アジアを旅行し、2005年より現地の風景や人々、文化を撮り続けている。2013年9月にはモンゴル帝国の古代4ハーンが取りまとめた国々を訪れる。マルチメディア制作のキャリアを活かし、自身の旅行体験を映像や音声ドキュメンタリーでも発信している。



・Silvijo Selman(シルヴィオ・セルマン)

クロアチアに生まれ、独学で写真を学ぶ。ポートレート、イベント、風景の撮影を専門とする。写真家としてのキャリアを1997年にスタートさせて以来、作品はクロアチアやドイツの写真展で取り上げられている。瞬間をシュールな雰囲気で切り取ることに長けており、主に合成を用いた印象的な作風が特徴。



・清水哲朗(シミズ・テツロウ)

1975年横浜市生まれ。日本写真芸術専門学校卒業後、写真家竹内敏信の助手を3年務め、23歳でフリーランスとして独立。独自の視点で自然風景からスナップ、ドキュメントまで幅広く撮影。2012年に15年間のモンゴル取材をまとめた写真集「CHANGE」を現地で上梓。第1回名取洋之助写真賞受賞。「日経ナショナル・ジオグラフィック写真賞2013」ピープル部門優秀賞。2014年日本写真協会賞新人賞受賞。2016年フォトシティさがみはら写真新人奨励賞受賞。公益社団法人日本写真家協会会員。



・Supasit Srisawathsak(スパシット・シーサワットサック)

タイのトップファッション写真家。作品はElle、Harper's Bazaar、Hello、Image、Anywhereなどの雑誌に掲載されており、Digital Camera Magazine誌では特集が組まれた。タイ国内の著名な美術大学において、ファッションデザイン、ファッション写真、プロ写真などについての講義を担当。



・Yann Manach(ヤン・マナック)

企業写真家、ポートレート写真家として、数々の企業の写真資産のデータベース化や広告宣伝に貢献し、企業向けポートレートの撮影も手がける。モデルやコメディアン、その他のタレントのプロフィール写真撮影も担当。斬新なプロジェクトにも常に精力的に取り組み、仲間の写真家達と撮影技術について意見を交わすことを大切にしている。ヤン・マナックの作品には、「美しい写真を撮る」という彼の情熱が溢れている。



本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。